

施策評価シート（平成25年度の振り返り、総括）

作成日 平成26年 06月 20日

施策 No.	8	施策名	生涯学習の推進
主管課名	生涯学習課	電話番号	0285-82-7151
関係課名	文化課、スポーツ振興課、科学教育センター、福祉課、（社会福祉協議会）		

施策の対象	市民								
対象指標名	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度見込
人口	人				82,584	82,136	81,511	80,929	85,500

施策の意図	市民に学習機会を提供することにより、生涯にわたって学習テーマを持ち、学習してもらう。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法（算定式など）	<ul style="list-style-type: none"> ・学習テーマを持って日頃学習に取り組んでいる市民の割合は、市民意向調査の集計結果 ・生涯学習に関する講座数及び参加延べ人数は、生涯学習課、図書館、文化課、スポーツ振興課、科学教育センター、社会福祉協議会で行った講座数の合計（生涯学習課は、出前講座が平成21年12月から開始したため市民講座数だけ計上。） 								
成果指標名	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度基本計画目標値
学習テーマを持って日頃学習に取り組んでいる市民の割合	%				26.4	24.5	25.6	27.0	35.0
生涯学習に関する講座数	講座				87	77	114	133	77
生涯学習に関する講座参加延べ人数	人				10,981	12,780	12,302	12,786	8,000

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	生涯学習は、市民が自主的に活動することが必要であり、主体は市民である。行政は講座などを通じて生涯学習のきっかけをつくり、自主活動団体としての活動を支援していくために、学習機会や学習の場の提供等、学習環境の整備を進めることが主な役割となる。
-------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

（1）施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

- ・市民意向調査では、学習テーマを持って日頃学習に取り組んでいる市民の割合は27.0%と、ほぼ横ばい状況である。
- ・生涯学習のさらなる推進を図るために、「出前講座」を平成21年12月から開始した。実施した講座数は、平成22年度が63講座、平成23年度が108講座、平成24年度が158講座、平成25年度が129講座とやや低下した。

（2）近隣他市との比較

- ・県内各市の生涯学習に関する講座数や参加者数については、講座の実施機関や実施方法等が様々であるため比較することは難しい。
- ・県内の出前講座は、14市中真岡市を含めて12市で実施している。本市の講座のメニュー数は130講座と、県内で4番目に多く、実施回数も多い順から4番目で、高い位置にある。参加人数は多い順から6番目であり、中間の位置にある。

3) 住民期待水準との比較

- ・今後のまちづくりに力を入れてほしい施策で「生涯学習の推進」の割合は、平成23年度が7.5%、平成24年度が9.6%、平成25年度が8.5%とほぼ同水準である。

25年度の
評価結果

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

- ・生涯学習の推進については、生涯学習課、図書館、文化課、スポーツ振興課、科学教育センター、社会福祉協議会で行っている市民講座数は133講座である。
 - ・出前講座は、メニュー内容の充実を図り、平成25年度は130講座とした。
 - ・市民講座の参加者の状況は、「初心者英会話」・「はじめての韓国語」・古典「平家物語」を読む等の講座は、約8割が女性である。料理関係の講座は、16講座開設し8割以上は、女性である。
- また、中高年男性対象の簡単料理教室を1講座開設し、団塊世代の男性参加者に好評を得た。
- 親子対象講座は、和太鼓、絵本づくり、親子料理教室等を開設した。
- ・出前講座の利用者は、女性が7割以上を占め、参加者の年代も30代から60代とさまざまである。家庭教育学級や女性学級で出前講座を利用する例が多いが、地域の女性団体が地元の公民館を会場として利用している例が増えている。
 - ・市民意向調査で、学習内容は「スポーツ・レクリエーション活動」が33.3%と最も多く、次いで「地域での交流活動」24.3%、「芸術・歴史・文化等の文化活動」が23.1%となっている。学習方法は、「個人的な学習」43.9%と「グループ・サークルでの活動」37.1%が多く、「公共機関が開催する教室・行事等」は19.0%となっている。学習活動に取り組む動機は、「趣味や教養を深める」が54.8%、「健康・体力づくり」が39.9%、「仲間づくり」が34.3%、などとなっている。
 - ・真岡市立図書館においては、平成21年度から指定管理者制度を導入して開館時間の延長や祝日の開館、貸出冊数の無制限化などのサービス向上を行っている。平成25年度の利用者数5万5,279人で、貸出し冊数は、19万9,707冊であった。なお、特色ある取り組みとして、乳幼児から小学生までを対象とした「読み聞かせ事業」や外国人講師による「英語のおはなし会」の開催、季節に合わせた特設展示コーナーを月替わりで、設置し、今話題の新刊本や季節に関連した本の紹介などを行っている。読書活動の推進や団塊世代向け「大人の映写会」等の事業を実施した。また、平成25年度の真岡西分館図書室の利用者数2,262人で、貸出し冊数は、9,673冊であり、二宮分館図書室の利用者9,934人で、貸出し冊数は、4万3,822冊であった。
 - ・平成22年3月に「真岡市生涯学習推進基本構想・基本計画」を策定し、進行管理を行っている。

25年度の
評価結果

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

- ・生涯学習のきっかけづくりとしての市民講座については、市民のニーズを把握しながら、より多くの講座を開設して参加者を増やしていく。
- ・市民講座の受講者には、講座終了後には定例使用団体(市公民館：61団体、西分館：46団体、山前分館：25団体、大内分館：16団体、中村分館：21団体、二宮分館：40団体、合計：209団体)となって、自立して活動していく方向で、今後も指導を図っていく。
- ・出前講座のメニュー充実と各団体、事業所等への周知の強化を図る。
- ・二宮コミュニティセンターを市民のふれあいの場としていく。特に二宮分館の会議室・調理室・ギャラリーを活用した生涯学習の推進を図っていく。
- ・二宮図書室は、蔵書数が目標の6万冊に達したため、平成26年4月から真岡市立二宮図書館に名称を変更し、真岡市立図書館と合わせて指定管理者制度を導入し、より効果的・効率的な管理運営を図っていく。
- ・二宮文化会館は、平成26年4月から真岡市生涯学習館に名称を変更し、生涯学習の推進及び管理運営を図っていく。
- ・平成22年に策定した「真岡市生涯学習推進基本構想(平成22～平成31)・基本計画(平成22～平成26)」の基本計画が平成26年度に最終年度になるため、平成27年度から5年間の内容検討を図っていく。

25年度の
評価結果

補足事項

- ・真岡市公民館連絡協議会は、地域公民館（167館）の地域住民の理解と参加による積極的な活動を図るため、花いっぱい運動、親善女性バレーボール大会、地域公民館芸能発表会、研修会などを開催している。また、地域公民館においても、公民館まつりをはじめ、各種事業や研修会を開催している。
- ・真岡家庭教育オピニオンリーダー会は、健全な家庭教育の推進をとおして、子どもの健全な育成を目指し、親の子育てにかかわる学習活動（コアラちゃんクラブなど）を支援し活動している。